

北海道中標津農業高等学校の行動計画(グローカル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローカル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させれる教育」を行います。	(1)アグリマイスター顕彰制度を活用し、全校生徒が共通に身に付けるべき資質や能力の育成と、多様な学習ニーズへきめ細やかな対応を行う。 (2)農業クラブ三大事業に向けた取組を強化し、クラブ員の農業クラブ活動に対する意識向上を図る。	3年間継続して三大事業や資格取得に意欲的に取組むことができた。 農業鑑定競技会では1名が全国大会で入賞、美術発表大会では発表が全道大会進出を果たした。	資格検定の合格者増加を図るとともに1年次より継続的な指導や声かけを実施する。 農業クラブ各種行事で成果が上がっている一方で意欲が低いクラブ員へ対するアプローチ方法の検討を行う。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローカル教育」を行います。	(1)JICAなどの関係機関を通して、グローバル社会に対応し、広い視野に立って地域活動を推進する人材を育成する。 (2)SDGsやみどりのシステム戦略の考え方を取り入れたプロジェクト活動を推進し、持続的な地域連携を図る人材を育成する。	講習会などを実施しグローバルな社会に対応した語学力と職業観を養う。 各研究でSDGsの達成に繋がるプロジェクト活動の展開や植樹活動にも取組むことができた。 また、みどりの食料システム戦略に沿わる研修会を開催できた。	講習会を含めて継続的に実施し、地域活動を推進できる人材を育成できるようどのような手法が有効か検討を実施する。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1)JGAPや農場HACCPに準拠した生産体制を展開する。 (2)SDGsの考え方を取り入れたプロジェクト活動を推進し、持続的な地域連携を図る人材を育成する。	JGAP家畜・畜産物（乳用牛・生乳）に対応した認証に基づいた生産管理を実施できた。また、更新審査も無事終了することができた。 鹿肉を活用したエゾシカさんの開発や小麦生産に取組み、パン等の製品化を実践できた。	国際認証に準拠した生産管理体制を継続的に実施し、グローカルな視点で学ぶことのできる学習環境を整備する。 地域企業等と連携した製品開発の推進を行う。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1)企業実習を通して、農業関連産業従事者としての職業観・勤労観を養い、地域の未来を支える職業人の育成を目指す。 (2)フードシステムの一連の流れを体系的に学習させるとともにHACCPの考え方を取り入れた加工品の製造を展開する。	3学年で企業委託実習を実施し、農業関連産業従事者としての職業観・勤労観の醸成及び進路決定に結び付けることができた。 HACCPに準じた製品製造および衛生管理を徹底できた。 製品の保存方法（冷蔵表示）について、消費者が分かりやすい表示の工夫を行った。	担任、進路指導部と連携し、進路決定にも結び付く、企業委託実習を目指す。 日常の記録と複数体制での確認を徹底し、食品事故の未然防止を行う。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1)校内で生産された有機質肥料（堆肥）の活用により化学肥料使用量の低減を図る。 (2)光合成細菌を用いた農産物の生産を行い、循環型農業の確立を図る。	土壌分析をもとに施肥計画を立案するとともに光合成細菌を用いた自家肥料を製造し、化学生物の減肥を行い、生産物の生産に取組むことができた。	継続実施する。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1)地域資源の活用に関する活動を行い、地域資源への興味関心の向上を図る。 (2)食農教育活動をより一層充実させ、地域内一貫教育を行う。	企業や官公庁と連携した地域資源の利活用と商品開発に取組むことができた。 近隣学校や地域企業と連携した体験的な食農教育に全校生徒が関り実践することができた。	地域連携の取組みは増加しているが、単年度の活動となっている場合も多い。将来的な見通しを持った持続的な活動となるよう地域連携の取組みを行う。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1)ICTを用いた学習活動を展開するため、ICT機器（タブレット端末等）を積極的に活用した授業運営を図る。 (2)スマート農業学習を充実させ、正しい知識の定着を図る。	ICT機器（タブレット端末等）を活用した授業展開を積極的に推進することができた。 専門学校や地域企業と連携し、プログラミング学習やドローンの利用等、スマート農業に関する学習を実施できた。	ICTの効果的な活用に向けた教員研修の充実を図る。 地域企業、農家と連携し、最新のスマート農業に触れる講習会の充実を図る。	3
	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1)自然災害に関する理解を深め、地域と共に防災教育を推進する。 (2)安全教育を徹底し、地域防災を意識した危機管理能力の向上を目指す。	地域防災を意識して年2回の避難訓練を実施することができた。	地域と連携した防災教育と防災意識の醸成を図る。	4